ジャズ文化によるまちづくりに関する研究 ～「うつのみやジャズのまち」をケーススタディとして～

宇都宮大学 学生員 ○根本 拓治
宇都宮大学 正会員 阪田 和哉

1. はじめに

近年まちづくりに関して個性豊かな地域の特性を生かすことが求められてきており、さまざまな文化的ソフトが手段として用いられている。

宇都宮市では「うつのみやジャズのまち」として、ジャズ文化を用いた様々なまちづくりを行っている。その主な手段として、ジャズフェスティバルなどのイベントの開催や宇都宮市出身のプロ演奏家渡辺貞夫の顕彰事業などがあり、宇都宮の「餃子」文化と合わせて多くの来場者を集めている。

ジャズはもともとアメリカ南部の黒人の間で生まれた音楽文化であり、日本に入ってきたのは大正以前のことだと言われている¹⁾。宇都宮においては、昭和10年頃の観光客向けのパンフレットにジャズについて書かれていることから²⁾、少なくともそれ以前にはジャズが入っていたこととなる。2001年より市ではジャズのまちづくりを本格的にスタートさせ、年に数回のイベントや展示を行っており、動員数は年々増加している。

本研究では、ジャズ文化のもつ特性から都市にジャズ文化が根付くことでどのような効果があるかを考察し、市内におけるイベントのデータと各種団体に対するヒアリングによって仮定の検証を行い、ジャズがまちづくりに対してどう影響するかを考察することを目的とする。

2. 「うつのみやジャズのまち」概要

「街角から音楽が聴こえる」を方針とし、宇都宮を「ジャズのまち」とし2001年に市と民間団体の代表が「うつのみやジャズのまち委員会」を立ち上げ、事業がスタートした(表1)。またジャズの民間団体を作ろうという声に応え、「宇都宮ジャズ協会」を設立し、この二つの団体を中心にまちづくりが行われている。

主な事業内容は、「ジャズのまち・宇都宮」のブランド化と宇都宮市出身のミュージシャン渡辺貞夫氏の顕彰につな

がる取り組みを推進することである。表2にその活動を示す。

表1) うつのみやジャズのまち委員会の構成

宇都宮市	公益団体	音楽団体	その他
教育委員会	宇都宮商工会議所	宇都宮軽音楽連盟	ナベサダクラブ
文化課	宇都宮観光コンベンション協会	栃木県ビッグバンド連盟	オリオンジャズ実行委員会
	宇都宮青年会議所		宇都宮市商店街連盟
	宇都宮まちづくり推進機構		栃木よみうり 等

表2) 主な事業内容

事業コンセプト	内容	目的
鑑賞・交流型事業	ミヤ・サンセットジャズ 宮ふれあいステーションジャズ	音楽のあふれる街の創出 市民のジャズへの意識高揚
参加型事業	市民芸術祭・軽音楽祭	音楽の発表の場の創出
育成型・教育普及型事業	ふれあいジャズセミナー	演奏者の育成
顕彰事業	ナベサダウィーク	渡辺貞夫氏の顕彰
普及啓発事業	ジャズマップ、ホームページ	県内外へのPR

3. ヒアリングから導かれる

「うつのみやジャズのまち」の将来像

3-1. ジャズのまちづくりの理想像

各種団体へのヒアリング(表3)を元に、「ジャズのまち」の将来像、また、将来像から考えられる宇都宮市へのメリットを表4にまとめる。

表3) ヒアリング調査対象

ヒアリング日時	対象者所属団体
2008年9月26日	うつのみやジャズのまち委員会
2008年12月3日	栃木ビッグバンド連盟
2008年12月25日	宇都宮商工会議所

ヒアリングの結果、考えられる課題に関し、プレイヤーは「もっと演奏できる場所がほしい」など日常的な活動についての意見が多かったのに対し、イベント主催側は「イベントを定着させ、より商業的効果を狙いたい」などイベントに関しての意見が多か

表4) 希望する将来像と考えられる影響

希望する将来像	考えられる影響	影響を受ける主体
日常的に誰でも演奏できる	集客効果、経済波及効果、新たなイベント・事業の創出、PR	プレイヤー、観光客、地元商店街
イベント等演奏機会の増加	観光事業との結び付き	事業主体、プレイヤー、観光客
ジャズを取り入れた教育	音楽を通じた全人格教育、演奏者、愛好家の育成、市内ジャズの活性化、郷土への愛着	市内小中高生
ジャズイベントの規模拡大	経済波及効果、集客効果、演奏機会の増加、PR	プレイヤー、地元商店街、事業主体、観光客

キーワード ジャズ まちづくり 音楽文化 イベント

連絡先 〒321-8585 栃木県宇都宮市陽東7-1-2 宇都宮大学工学部建設学科 TEL: 028-689-6223 FAX: 028-689-6220

った。また、いずれの団体も「ジャズを取り入れた教育を行うべきである」という意見が出ていた。

現状では、宇都宮市でのジャズのまちの取り組みはイベントが中心となっており、経済効果など商業的成功を目的とした主催側と趣味としての演奏を目的としたプレイヤー側の間で意識の違いが生じている。

3-2. 影響の検証

表 4 の考えられる影響について、先進事例を交えて検証する。

(1) 日常的に誰でも演奏できることによる効果

先進事例として柏市のストリートパフォーマンスが挙げられる³⁾。柏市ではストリートミュージシャン認定制を導入しており、騒音などのデメリットを解消し、賑わいや集客などのメリットだけを残す取り組みを行っている。また、地元商店会や大型店の代表によって構成される「柏駅周辺イメージアップ推進協議会」では、ストリートアーティストに関する情報や柏駅周辺におけるイベント情報などを web ページ上で公開する「柏ストリートネット」を作成し、市とストリートアーティストが結びついたまちづくりが行われている。

宇都宮市においても演奏場所の提供・確保を望む声が多いことから、柏市の事例が参考となる可能性は十分にある。

(2) イベント等演奏機会の増加による効果

先進事例として各地の音楽イベントがある。ここでは FUJI ROCK FESTIVAL を取り上げる⁴⁾。FUJI ROCK FESTIVAL は夏に開催され、日本各地はもとより世界各地から様々なアーティストが集まる日本でも有数の音楽イベントであるが、会場となるのは冬期にスキー場として知られる苗場である。イベントには日本各地から人が集まり、来訪者向けに旅行会社はイベントツアーを企画・運営している。またスキー場近くの多くの宿がイベント来訪者の宿泊場所として利用され、周辺への経済効果も生まれている。このイベントにより、地域の経済活性化やネームバリューの向上が実現しており、観光と文化的イベントが結びついた事例と認識することができる。

宇都宮市では MIYA JAZZ INN というジャズフェスティバルが行われており、関東地方においてバスツアーが催されていることから、観光との結び付きも確認することができる。

(3) ジャズを取り入れた教育による効果

中学校音楽科の教科の目標は、文部科学省中学校指導要領⁵⁾では、「表現及び鑑賞の幅広い活動を通し

て、音楽を愛する心情を育てると共に、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養う」とあり、音楽を通した人格形成も狙いとしていることがわかる。

また、ジャズ特有のソロ・インプロビゼーションとアンサンブルという演奏スタイルが音楽を通した全人格形成に最も適しているという考えから、2007年2月に「日本ジャズ教育サミットプレ大会」が開催され、議論が交わされた。

宇都宮市では文化庁の支援を受け、「うつのみやジュニアジャズオーケストラ」を結成し活動しており、また県外のバンドも参加しての「ヤングジャズ 2008」というイベントを開催するなど、精力的に活動を行っており、将来のジャズプレイヤーの育成だけでなく、全人格教育の効果についても期待されている。

(4) イベントの規模拡大

先進事例としては仙台市における「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」が挙げられる⁶⁾。このイベントは開始当初より運営は市民ボランティアが行っている。1991年の開始時に比べ年々規模が拡大し、現在では観客数70万人超の日本最大級のジャズイベントとなっている。当然のことながら、経済波及効果やPR効果、集客効果など様々な効果も大きいものと考えられる。

宇都宮市の MIYA JAZZ INN もイベントの形態が似ており、また年々観客数も増加してきている。

4. 結論

本研究では宇都宮のまちづくり事例として「うつのみやジャズのまち」を取り上げ、文献調査やヒアリングから現状を把握し、将来像を導いた。また先進事例と将来像を比較し、考えられる影響の実現性について検討した。

今後の課題としては、宇都宮のジャズ文化が観光客や地域経済に対してどのような影響を与えているのかを把握し、宇都宮のまちづくりにどう生かすかを考察することが挙げられる。

参考文献

- 1) マイク・モラスキー著、「戦後日本のジャズ文化 映画・文学・アングラ」、青土社、2005。
- 2) 「宮の花街」、東北みやこ新聞社、1925。
- 3) 柏ストリートネット HP
<http://www.kashiwa.ne.jp>
- 4) FUJI ROCK FESTIVAL HP
<http://fujirockfestival.com>
- 5) 文部科学省 HP <http://www.mext.go.jp>
- 6) 定禅寺ストリートジャズフェスティバル HP
<http://www.j-streetjazz.com/index.html>